



医療的ケア児の学校生活を支える学校看護師

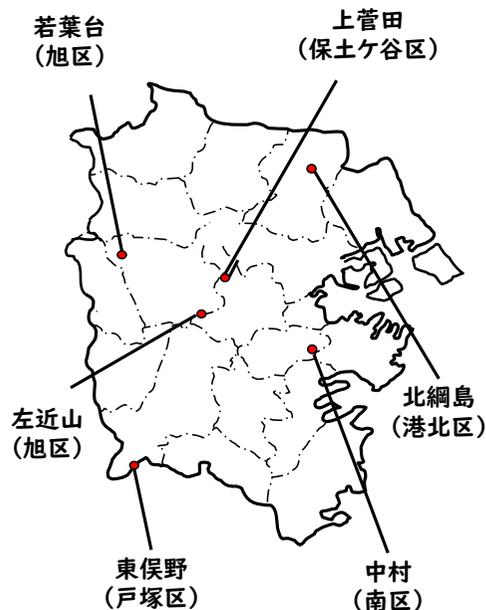
横浜市立特別支援学校と一緒に働きませんか？

こどもが好きな方、重症心身障害児への支援に関心がある方、お待ちしております！



【働く場所】

横浜市立 肢体不自由特別支援学校6校



【学校看護師の仕事】

- ・医療的ケアの実施
 - ・ケアを実施する教員への指導
 - ・緊急時の初期対応
- 等

★1校あたり5～7人の学校看護師がおり、協力して仕事を進めています。

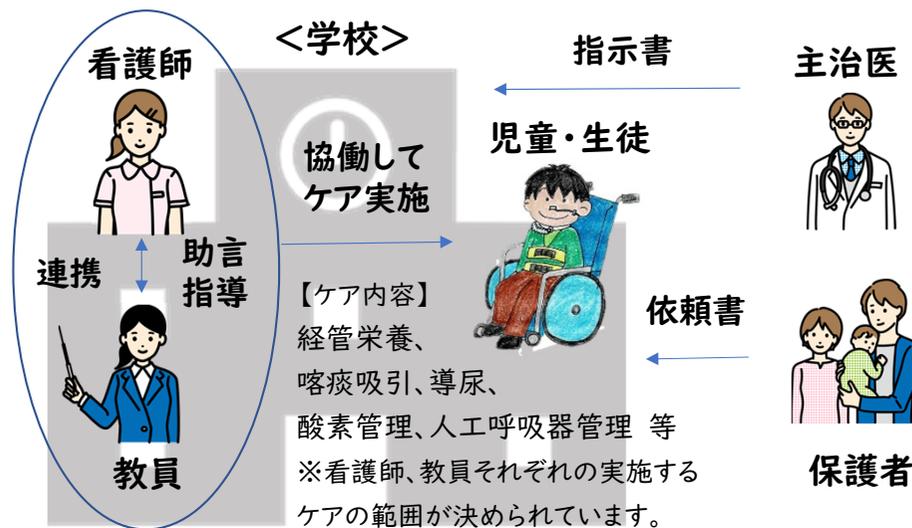
小児看護の経験がない方やブランクがある方も、研修やOJTにより、学校看護師としての必要な知識や技術を習得することができます。

【肢体不自由6校の状況】

- ・小学部、中学部、高等部
- ・児童生徒は日常的に車いす等を使用し移動しています。
- また、一人ひとり、それぞれの方法でコミュニケーションをとっています。
- ・児童生徒数は、6校合計約450人
- ・このうち3～4人に1人が医療的ケアを必要としています。

【医療的ケアの実施の流れ】

- ・医師の指示書及び保護者の依頼書に基づき、学校長の管理責任のもと、実施します。
- ・学校看護師は「指導看護師」の講習を修了した上で、喀痰吸引等研修(3号)の講師として、教員への指導や評価を行います。



特別支援学校の1日と学校看護師のかかわり(例)

	児童生徒	看護師
9:00		出勤・打合せ
9:30	登校・ADL※	ケア(吸引等)
10:15	朝の会	
10:30	授業(自立活動)	(例) 歩く練習や、 リラクゼーション等
	ADL	ケア(導尿等)
11:10	授業(教科学習)	
	ADL	ケア(吸引等)

※ADL:着替え、水分摂取、排せつ、歯磨き等

	児童生徒	看護師
12:00	給食	ケア (経管栄養等)
	昼休み・ADL	順番に昼食
13:30	授業(教科学習)	
	ADL	ケア(吸引等)
14:15	帰りの会 下校	
14:40	希望する職員は おいしい給食を 食べられます!	記録作成・ 会議・情報交換
16:00		退勤

特別支援学校の年間計画(例)

4月	5月	6月	7月	8月	9月
入学式 始業式	運動会 プール開始	小・宿泊 中・遠足 高・実習	高・遠足	夏休み	小・遠足 中・宿泊 高・宿泊
			採用時や夏休み期間を活用して 看護師研修を実施します。		
10月	11月	12月	1月	2月	3月
小・修学旅行 芸術鑑賞会	中・修学旅行 高・修学旅行 文化祭	高・入学検査 学習発表会		卒業を祝う会	卒業式 修了式

現場で働く学校の看護師【生の声】は裏面で! →

学校看護師からの生の声



働いてよかったと思う時、やりがいを感じる時は？

- 学校看護師がいることで児童生徒が保護者から離れて登校し、学校生活を送れる。そのサポートができることに喜びを感じます。
- 授業の様子等から、本人が持つ力を体感した時。成長、発達していく瞬間を目の当たりにします。
- 教員と協力しながら児童生徒の状態に合ったケアを実施し、学習効果が上がっていると実感できた時。また、積極的に楽しく授業を受けることができたり、体や心が整って安心した様子を感じられた時。
- 保護者と一緒にいる時や病院とは違う表情や反応、友達と過ごす姿を見られた時。うれしい、楽しい姿がかわいいです。
- 入院生活を乗り越えて入学し、行事にも参加している姿を見ると感動します。
- 個性や変化、成長を長期的に見守れることがいいと思います。
- 無事に笑顔で下校していく時。
- 夜勤や休日勤務がなく、学校の夏休みに合わせて自分の休暇もとりにやすいため、子育てとの両立がしやすいです。身体的な負担も少ないと思います。



働いていて大変だと思う時は？

- 急変時の対応。医師がいないなか素早く適切な対応が求められますが、管理職等に相談し、対応しています。
- 児童生徒の体調に少し変化を感じた時、そのまま授業や学習を進めたい教員と、体調管理を行いたい看護師で優先順位の違いを感じることがあります。状況を確認し、連携して対応しています。
- 業務が集中する時間があり、時間配分を考えて行動する必要があります。



学校と病院等で、どのような違いを感じましたか？



- 学校は教育の場であり、学校における医療的ケアは学習を受けやすくするために行うこと。教員の教育的視点、看護師の医療的視点をすりあわせ、適切なケアのタイミング等を考えています。
- 指示書、依頼書に基づく個別のケアマニュアルが児童生徒ごとに細かく決められていること。研修を受けた教員もケアを行う点や医師がいないなかでも安心安全なケアを行うためには必要なことだと思っています。
- 看護師としてのバックグラウンドや知識、技術もさまざまなので、疑問を感じた時は相談し合って解決したりと、助けられています。
- 学校看護師は、各児童生徒の全体像を把握するというより、学校内の医療的ケアに限定して関わることが多いため、情報収集の深さが異なります。
- 今まで個人への看護に焦点を当てており、集団生活の中にいる児童生徒への関わりは初めてでした。
- 学校は地域の一部であり、地域の支援機関との関係性も考慮して関わることの大切さを感じます。



働く上で大切にしていることは何ですか？



- 多職種との協働、コミュニケーション。
- さまざまな意見を尊重して、チームで支え合うこと。
- 安心して学校に来ることができ、児童生徒も教員も声をかけやすいような環境づくり。
- 笑顔で児童生徒のみなさんに接する！
- 学校という場でも看護の基本は変わりません。高い専門性をもって、最適なケアを提供すること。



○ご質問やご興味がある方はこちらまで○
横浜市教育委員会事務局特別支援教育課
電話：045-671-3958 FAX：045-663-1831
メール：ky-tokubetusien@city.yokohama.jp

市web

